

■ 第37回近畿地域弓道大会

10月6日 京都市武道センター弓道場において第37回近畿地域弓道大会が開催されました。参加者619名でした。

【成績結果】

☆団体男子の部

- ①奈良G (山口亮二・鈴木規央・新子修平)
- ②兵庫AD (豆田貴之・渡部敬之・寺岡栄一)
- ③京都H (西村卓郎・山川悠太・矢田全邦)

☆団体女子の部

- ①奈良F (土谷ひろみ・福本紀子・中西美津枝)
- ②大阪V (林 直子・清水雅子・堀井佳奈)
- ③京都H (志村 灯・日野西貴・吉井友紀子)

☆個人男子の部

- ①奈良(山口亮二)・②兵庫(古森久貴)
- ③大阪(大楽真健)・④奈良(衛藤博史)
- ⑤京都(竹内淳一)

☆個人女子の部

- ①大阪(白石 唯)・②大阪(清水雅子)
- ③滋賀(木村映美子)・④奈良(中西美津枝)
- ⑤京都(船越美恵子)



女子団体準優勝



女子個人・優勝・準優勝

■平成25年度・スポーツ指導員養成講習会

10月12日、主催・公益財団法人 大阪体育協会・公益財団法人 全日本弓道連盟による、スポーツ指導員養成講習会の開講式が行われ、41時間に渉る講習会がスタートしました。当該講習会は平成20年度に開始され、今年で6回目になります。過去の受講生は延べ160名になりました、他府県に比べて十分な資格者を擁しているわけではありません。

他府県では称号者全員の取得を目標としている所も少なくありません。大阪府連では称号者の47%(約半数)の方が取得されていますがまだ十分ではありません。

一般会員の受講有資格者から見ると僅かに

12%(96名)が取得しているにとどまりません。本講習会は、毎年確実に開催されるものではなく、体協の審査があって、承認を受けて初めて実施されるものです。次回、開催の折にはぜひとも多数の方の参加を期待致します。



スポーツ指導員養成講習会開講式

■ 大阪府連 級～四段講習会

10月21日大阪府連の講習会が岸和田・堺初芝・住吉の三会場に別れて行われました。

各会場共に熱心な講師の先生方のご指導の下、受講生も真剣に耳を傾け、熱の入った一日でした。「四段」の会場となった住吉では開会にあたり中野会長が次のように挨拶されました。

『四段は大阪府連審査の最高段位の審査なんです、皆さんはそこを超えて来た人たちなんですから、自覚を持って今日の講習に臨んで下さい』。四段の参加者は8名でした。仕上げは「三人一つの射礼」が行われました。



岸和田会場の稽古風景



住吉稽古風景

(写真：塚本正雄)

■ 大阪府(大阪市)地域社会 弓道指導者研修会

10月26日～27日「大阪府(大阪市)地域社会弓道指導者研修会」が大阪城で開催されました。本研修会は錬士を対象とした講習会で、従来の形式と異なり、「公益財団法人日本武道館」等の主催でおこなわれました。中央講師は久保田清範士八段、飯島千代子教士八段をお迎えして催されました。



久保田・飯島の両講師



射技研修

■ 近畿地域交流会に参加して

田中 淳治
(高槻弓友会)

平成25年度の近畿地域交流会は10月19日(土)、20日(日)に京都市武道センターで行われました。この度、初めて交流会に参加させていただきましたので、今回の交流会について皆様にご報告します。

近畿地域交流会は近畿2府4県の連盟の方々の情報交換の場として、併せて近畿の弓道(射技・射法)の充実と指導力の向上を目標に「近畿はひとつ」の合言葉のもと始められたと聞きました。今回は、和歌山の佐竹範士が主任講師、京都の大堀教士と大阪の中野教士が講師として、また教士七段の先生方は指導者の立場で講師を補佐して行われました。受講生は33名(各府県から4～6名:錬士五段～教士七段)で、1日目の午前は開講式、矢渡、一手行射、午後は持的射礼、二日目は午前が一的射礼、午後は3班にわかれての射技指導の内容でした。

開講式で主任講師の佐竹範士から「今回は、交流会の名の通り交流を深めることに重点を置いて行います。」と、ご挨拶があり、従来の各講師からの伝達形式ではなく、指導者を含めて参加者が意見を述べあう形式となりました。

たとえば一手行射については、終わった後全員が車座になり、受講生が自分の射について意見を求めそれに対して、指導者の視点で見た教士七段の先生方が評価や説明を行う際も、実際に皆の前で質問者と指導者が実践し、意見を出し合うなど非常に理解しやすいものでした。また、自分が射を行う前後は見取稽古として脇正面から他の受講生の射を拝見しつつ、指導状況や説明を間近で見聞して、お互いに切磋琢磨という言葉通りの交流研修会でした。

脇正面から見ることについては、佐竹範士から審査員がどのようにみているかという説明もありました。確かに前から見ると射場内の射技・体配が非常によく見えてましたが、審査員も同じように呼吸をしてみているので息合いが合えば安心して見ていられる。無駄な動きや間延びは呼吸が合わないし、髪の毛が当たらないかなど審査員をドキドキさせるのはよくない、また袴や和服の着装の留意点についての説明もありました。このほか控室では襷懸けや歩き方の個人指導など、いつもの研修会よりも格調が高いと思っていた交流研修会でしたが、具体的かつ実践主体の普段着の内容もありました。

二日間の交流会は、厳しさのなかにもお互いが納得できる実践に一体感が生まれた有意義な交流会となり、個人的なご指導のほか研修会の在り方や方法についても参考になる点が沢山あり、今後に活かしていきたいと気持ちを新たにしました次第であります。最後にこの様な会合に出席の労を賜りました先生方に心から御礼申し上げます。

お詫び

10月号に掲載の「近畿地域連合審査」五段合格者氏名及び所属に下記の通り誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

佐々木友里恵(堺)	鳥居 嵩(住吉)
↓	↓
佐々木友里栄(堺)	鳥居 嵩(堺)